

鐵道の改良と海陸の聯絡に就て

鐵道省工務局長 後 藤 佐 彦

鐵道の改良計畫は一昨十三年に大變更を行ひ五十議會の協賛を経た。議會では相當の論議が交はされたが、其内容は財源の許す範圍に於て輸送の緩和と運轉の保安とに主力を注ぎ、大體に於て先づ緩急宜しきを得たものであるといへやう。然るに昨年は非常の減收を來し財源の缺乏を生じたが、幸ひ他に財源を求むるを得て大體所期の計畫を遂行することにはなつた。今年も景氣全く恢復するとも思へぬので再び財源十分なるを得ず、從つて五十一議會に提出する計畫も、前回のものに著しき變化修正を加ふる程の餘裕を見出すに至らなかつた。然らば今後數年間當分現今の改良計畫を以て満足すべきかと云ふに、然りこは如何にしても言ふこゝが出來ない。改良計畫としては前記輸送緩和、運轉保安の外、いくらも積極的施設を要するものがあるから、是非是等の計畫を進めるの必要があると思ふ。

抑も國有鐵道は鐵道省の鐵道でないこゝは今更申も迄もない。我邦一般の交通上の見地よりして、今少し大局より觀るの要があるのであるまいか。國有鐵道は我國の物資輸送上延ては產業の發達上、施設に缺くる處があるのであるまいか。此等の諸點より考へ、痛切に國有鐵道の最も大なる缺陷と思はるゝのは水陸連絡の設備であると思ふ。言ふ迄もなく我邦は四面海を環らして居るからには、國有鐵道は海の交通と離れて考へることを許さない。物資の種類に應じては、海で運ぶものと陸で運ぶものと區別するこゝが出來、各夫々其分擔を區割するこゝが必要である。強て陸で急いで運ぶ要のないものは、大部分海により陸運の混雜を緩和することも出来る。

鐵道の新線が開通して、地方の物資が新に搬出されるに至れば、幹線の輸送は益々困難



後藤佐彦氏
Mr. S. Goto,
the Director of Maintenance,
Imperial Government Railways.

になるが、港灣と鐵道との連絡を改善すれば幹線の負擔は大に輕減せらるゝともなる。現在に於ては、港に對する鐵道の施設なきために、海陸に亘り適當なる順路を通ずることなくして、變則的に鐵道の輸送を繁劇ならしめて居る處がある。是等は皆水陸聯絡設備の必要を證するものであるが、今日迄の國有鐵道を顧み、果して此方面の力の入れかたが十分であつたかといふに、遺憾ながら然りと答ふるに躊躇するものである。是は畢竟財源の不足に因り、其日其日の輸送行詰りを救済するにも金が不十分と云ふ有様なので、到底水陸聯絡に金を廻す餘裕がなかつたので、これは止むを得ない。然し今後は是非共此方面に投資することにしたいと思ふ。さりとて十五年度よりの豫算に、十分に此意義を示すこゝの出來ないのは遺憾至極であるが、致し方ない。然し近い將來に實現の機あるべきは信じて疑ひない處であるから、其準備として、十五年に於ては極力此方面の調査に從事したいと思つてゐる。此外にも、いくらも改善したいと思ふこゝがあるが、先づ水陸聯絡の如きから始めて行きたいと思つて居る。